



威信の舞台

よみがえる

大友館

大きな庭石の
発見から始まった...

一冊の日記の
解読から始まった...



【記念講演会】

- 日 時 11月19日(日) 午後1時～
- テーマ 「館の構造と荘厳」
- 講師 阿波・三好氏「勝瑞城跡」重見 高博氏(藍住町教育委員会)
周防・大内氏「大内氏館跡」佐藤 力氏(山口市教育委員会)
豊後・大友氏「大友氏館跡」五十川 雄也氏(大分市教育委員会)
- パネルディスカッション/コーディネーター 坪根 伸也氏(大分市教育委員会)
- 場所 ホルトホール大分 302・303会議室
- 料金 無料 ※参加者は、大分市歴史資料館での観覧料が無料になります

会期 平成29年10月27日(金)

～12月4日(月)

【展示解説講座】

- 日 時 11月5日(日) 午後2時～
- 料金 無料 ※受講者は当日の観覧料が無料になります

画像：上から「大友館主殿(天正元年頃のイメージ合成写真)」©佐藤功・姫野公徳/大友氏館跡池庭遺構/後赤壁賊堆朱盤九州国立博物館所蔵

開館時間 午前9時～午後5時[入館は午後4時30分まで]
 休館日 10月30日/11月13日・20日・24日・27日
 観覧料 大人200円(団体150円) 高校生100円(団体50円)

中学生以下無料 ※団体は20名以上
 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方と
 その介護者は無料(受付で手帳を提示)

交通案内 JR久大本線 豊後国分駅下車
 大分自動車道 大分I.C・光吉I.C.よりともに約15分

主催 大分市教育委員会/大分市歴史資料館

後援 大分合同新聞社/NHK大分放送局/OBS大分放送/TOSテレビ大分/OAB大分朝日放送/エフエム大分/J:COM大分ケーブルテレコム/月刊・シティ情報おいた



大分市歴史資料館

OITA CITY HISTORICAL MUSEUM

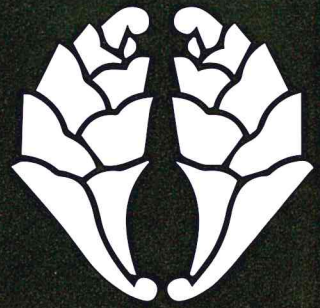
〒870-0864 大分市大字国分960-1 TEL097-549-0880

大分市ホームページ(<http://www.city.oita.oita.jp/>)の「観光・魅力」>歴史・文化財を学ぶ>大分市歴史資料館

當家年中作法日記



京・大坂図屏風 右隻「大坂城」(部分) 大阪歴史博物館



二条城や大坂城の御殿のような・

<主な展示品>

当家中作法日記 大友氏記録(影写本)・大友家文書録(影写本)
 東京大学史料編纂所
 木碎之注文 兵庫県洲本市・個人/洲本市立淡路史料館寄託
 京・大坂図屏風 大阪歴史博物館
 鶴原文書 大阪府高槻市・個人

豪華な饗宴料理

<主な展示品>

大内問答(群書類従本) 国立公文書館
 復元「式三献」「本膳料理」 山梨県立博物館
 かわらけ(金剛寺出土) 京都市考古資料館
 金箔かわらけ(勝瑞城館跡) 藍住町教育委員会
 金箔かわらけ(大内氏館跡) 山口市教育委員会
 金箔かわらけ(大友氏館跡) 大分市教育委員会

狩野永徳の障壁画で彩られた・

<主な展示品>

大友興廃記(写本) 大分県立図書館
 後赤壁賦堆朱盤 九州国立博物館
 伝狩野永徳筆花鳥図 京都市・個人
 伝狩野永徳筆帝鑑図屏風 京都市・個人
 秀吉公至大坂被移御座為祝儀 大分市・西寒多神社
 青磁円環耳付花瓶 大分市・杵原八幡宮
 華南三彩貼花文五耳壺 大分市・勝光寺
 /大分市歴史資料館寄託
 勝瑞城館跡出土品 藍住町教育委員会
 大内氏館跡出土品 山口市教育委員会
 大友氏館跡出土品 大分市教育委員会

I 大友館の構造

III 館での行事・儀式



IV 館と府内のまち

大友氏館跡の研究の原点でもある「府内古図」を初公開!

<主な展示品>

府内古図(A類) 大分市・個人
 都の南蛮寺(複製品) 大分市歴史資料館
 (原品 神戸市立博物館)
 東北院職人歌合 国立公文書館
 職人絵尽し(模本) 大分市歴史資料館
 兜 大分市・西寒多神社
 洛中洛外図屏風 奈良県立美術館
 中世大友府内町跡出土品
 大分県立埋蔵文化財センター



復元「本膳料理」(本膳) 山梨県立博物館



伝狩野永徳筆 帝鑑図屏風 左隻(部分) 京都市・個人



洛中洛外図屏風 右隻(部分) 奈良県立美術館

大友館は、200m四方の広大な館で、戦国大名では類をみない大規模な池庭や礎石を伴った主殿跡などが発見されています。豪華な襖絵や名品の数々で飾られ、荘厳なイメージの館では、室町将軍家に倣った儀式やさまざまな行事が執り行われました。南蛮貿易の拠点として、日本はもちろん、世界にその名が知られた府内のまちの中心に築かれた館は、まさに大友氏の威信を示す舞台であったといえます。

本展覧会では、20年におよぶ館跡の発掘調査を記念し、これまでの発掘調査や文献資料の研究成果をもとに、宗麟・義統によって最盛期を迎えた大友館の実像に迫ります。

